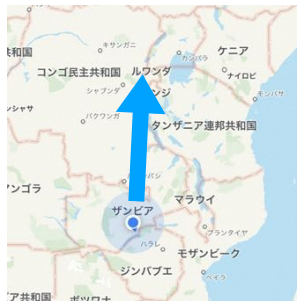


ザンビアダイアリー



また訪れたいと思わせてくれる国 ルワンダ



また行きたい。また会いたい。またやってみたい。そんなふうに思う瞬間は、きっとみんなにもあると思います。きっとそれは、楽しい時間をもった、人の優しさに触れた、すばらしいものに出会えた、そんな体験があったからだと思います。今回のルワンダへの訪問は、まさにそんな経験がたくさんありました。ザンビアとの違いにもたくさん気づきました。ネットで調べればわかることではなく、私が見て感じたルワンダを紹介します。

景色。ザンビアではまっすぐに広がる地平線が見られます。ルワンダでは『千の丘』と言われているほど丘が連なり、その絶景は癒しを与えてくれました。



その大自然の地下から湧き出る水を利用しているルワンダ人もいます。その水質を調べ、現地の人々の健康を守っている隊員がいます。彼らはその様子に興味を示していました。人のために行動する姿が相手に伝わり、信頼関係が築かれていくのだろうと感じました。



私たちは町や村で生活し、そこに住む現地の人たちに理解してもらいながら共に生活しています。ルワンダ人女性のレジナさんのお家を訪ね、食事を共にする機会がありました。そこでは隊員のみなさんと彼女の間に大切に育まれてきた絆に触れることができました。自分と同じものをもった人と一緒にいるのは居心地がいいので、異なる考え方や行動をわざわざ求めようとはしにくいですが、それでも、異文化に触れることを楽しみ、目の前にいる人と過ごす時間を大切にしようとする隊員のみなさんに出会いました。



ルワンダ東部にある孤児院も訪ねました。様々な理由により、家族に恵まれない、両親がいない子どもたちが仲良く協力して暮らしていました。彼らが安心して生活し学習できるお手伝いをしているルワンダ人と出会いました。困っている人のことを優先して自分にできることをしたいという話が印象に残っています。



ルワンダを訪れた日本人の中には、ルワンダに戻ってきている人もいるという話をよく聞きます。きっと、この国のすばらしい景色と穏やかな人柄、その中で生まれる温もりに魅了されたのだらうと思います。また訪れたいと思わせてくれる国、ルワンダでした。

発行：JICA 海外協力隊 大澤 明浩

2018年7月～2020年7月 チャールズルワンガ初等学校/モンゼ/ザンビア共和国

次回は『日本との交流③』を紹介いたします。